

全国農協カントリーエレベーター協議会会長賞を受賞！ 花巻東部CE



会長賞を受け取った伊藤組合長(中)と高橋組合長(右)

花巻東部カントリーエレベーター(CE)は、全国農協カントリーエレベーター協議会が主催する「優良農協カントリーエレベーター表彰」で、全国農協カントリーエレベーター協議会会長賞を受賞しました。

7月17日には、JA総合営農指導拠点センター(花巻市野田)で表彰式を開催。JAの伊藤清孝組合長と同CE利用組合の高橋新悦組合長が表彰状と記念品を受け取りました。高橋組合長は「今回の受賞を機にますます精進を重ね、今後皆さまの期待に沿えるように頑張る」と意気込みました。

同表彰は同協議会が5年に一度、優良なCEを審査し、表彰しています。



職員や女性部員から募る 子ども食堂「ぬくまる食堂」に食料品などを寄贈



集まった食料品を阿部会長に手渡す高橋利光専務(右から2番目)

JAは7月14日、花巻市の子ども食堂「ぬくまる食堂」に米150kgのほか、JA商品やレトルト食品、菓子、生活用品などを寄贈しました。

この活動は、国際協同組合デーに合わせてJAいわてグループの統一活動として実施。昨年度から持続可能な開発目標(SDGs)の取り組みの一環として、子ども食堂やフードドライブの運営などを支援しています。

同日に、同市内のホテルで贈呈式を開き、同食堂を運営する花巻ロータリークラブの阿部一郎会長は「たくさんの寄付をいただき非常に心強い。有効に活用していきたい」と感謝しました。

遊休農地の解消を！ 遠野市農業委員会が農地パトロールを実施

遠野市農業委員会は7月27日、遠野市民センター(同市新町)で「農地パトロール出発式」を開きました。

本田敏秋市長は「自然豊かな遠野市として少しでも耕作放棄地を解消し、遠野市の農作物は安全・安心という形を見いださなければならぬ」と話し、参加者たちを激励。千葉勝義会長がパトロール宣言を行いました。

同委員会は、市内農地の耕作放棄や違反転用、遊休農地の発生防止を目的に農地パトロールに取り組んでいます。今年度は7月29日から8月7日まで、農業委員19人と農地利用最適化推進委員25人、関係機関の職員17人が市内11地区を調査しました。



パトロール宣言をする千葉会長(右)

民泊新法の届け出サポート 「農泊研修会」を開催

JAや花巻市などで構成するはなまきグリーン・ツーリズム推進協議会は7月15日、同市内で「農泊研修会」を開きました。

住宅宿泊事業法(民泊新法)の届け出を目指す農家をサポートしようとする。同協議会の受け入れ農家で、同法の届け出に興味がある10人が参加しました。参加者たちは、今年同法の届け出を行った「農泊徳さん」と「民泊来てくね家花巻」を訪問。経緯や必要経費などを聞き、改修箇所や新たに設置した設備を見学しました。同法の届け出予定者2戸の家も見学したほか、同市内でゲストハウス「Me.inn」を運営する(株)ぼうけんの福田一馬代表取締役との意見交換も行いました。

参加した女性は「見学して苦労を聞くことができた。民泊新法の届け出を検討していきたい」と話しました。



「民泊来てくね家花巻」の客室を見学する参加者たち



花巻地域で今年度から本格出荷！ 西和賀オリジナルリンドウのほ場を視察



リンドウの生育状況を確認する参加者

花巻地域花き生産部会と西和賀花卉生産組合は7月3日、花巻市で西和賀オリジナル品種のリンドウを定植している3ほ場を視察しました。

生産者や県職員、JA職員など25人が参加し、花巻市と西和賀町の気候の違いによる草姿・花色や生育状況を確認しました。参加者は、各ほ場を視察し、互いに意見や情報を交換。栽培方法や収穫時期についての理解を深めました。今年度の生育状況は順調で、開花時期は平年並み。花巻市と西和賀町合わせて約17haで栽培しています。

営農部花巻地域営農グループ園芸課の城戸綾子さんは「今年度から花巻地域で西和賀オリジナルリンドウの本格出荷が始まる。このリンドウは同地域で栽培しても発色が良い。栽培管理に努めていただき、品質の良いリンドウの安定供給を目指す」と話しました。

地元園児を招いてブルーベリー収穫祭 花巻市大迫町の山口集落



食べ頃の実を見つけて収穫する園児

花巻市大迫町の山口集落は7月14日、花巻市立亀ヶ森保育園の園児を招き、ブルーベリーのほ場で収穫祭を開きました。

2〜4歳児10人がブルーベリーを収穫。園児たちは、「この実はまだだよ」と声を掛け合いながら、背丈ほどの木から食べ頃の実を探して収穫しました。収穫後には笑顔を見せて実を頬張り、「甘い」「おいしい」とブルーベリーを味わいました。最後には場で記念撮影をしました。関田朔くん(4)は「ブルーベリーとてもおいしかった。採ったブルーベリーは家に持って帰って、お母さんや兄弟と食べる」と話しました。

同収穫祭は地域貢献の一環として10年以上続けている恒例の企画。毎年、子どもたちに自然と触れ合う機会を作っていて、今後も継続する予定です。